

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503627		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム コケモモの家 1階		
所在地	札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町村受理日	平成30年1月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503627-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が得意な事を活かし、ホーム内で役割を持つことで生活の場であることを感じていただけるよう支援しています。入居者同士、馴染みの関係づくりが出来るよう職員が意図的に関わっています。町内会行事や買い物、外食等日常的に外出する事で地域との交流を図り、入居者の皆様が安心して生活できる環境づくりに努めています。入居者の皆様にとっては、職員も環境の一部であると捉え、お一人おひとりの意向の把握や状況・状態に合わせた対応で入居者の皆様が主体となり生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には、大型ショッピングセンターや病院、小学校や月寒公園がある幹線沿いに平成17年11月開設の木造2階建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。町内会の新年会や忘年会、盆踊り大会参加や緊急時に対応した昼夜を想定した避難訓練には町内の人々も参加して協力体制を整備していると共に中学校生徒の体験学習の受け入れなど、事業所の持つ機能を地域に還元する取り組みや地域の人々との交流・連携に努めている。一人ひとりのその日の希望に沿って、平岡樹芸センターや開拓の村、滝野すずらん公園や羊が丘展望台など普段は行けないような場所でも、戸外に出かけられるような支援やフードコート、レストランでの外食、焼肉パーティーや花火大会の開催など楽しみごとや気分転換への取り組みをしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時の職員が「地域密着…」を念頭におき考えた理念です。毎日、朝礼で唱和することで再認識をし日々の支援につなげています。各フロアにも掲示をして日頃から意識して支援しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り、フロア会議やミーティング等を通じて話し合い、その理念を職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーや飲食店を利用したり、町内会行事への参加をしています。ホーム前の行事や清掃時など通行人の方へご挨拶や声掛けをして交流を図るよう支援しています。	町内会の盆踊り大会参加や緊急時に対応した昼夜を想定した避難訓練には町内の人々も参加して協力体制を整備していると共に中学校生徒の体験学習の受け入れなど地域の人々との交流・連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学に来られたご家族へ、生活の中での困りごとはないかお聞きしています。認知症の支援についてアドバイスや相談について対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動状況や運営についても報告をしています。議事録は各フロアに掲示し誰もが閲覧できるようにしています。	定期的に運営推進会議を開催して、事故防止対策や自然災害(水害・地震)への対応等の具体的内容について話し合い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者連絡会や豊平区内の会議への参加の他、報告書類についても取り組み内容について報告しています。	市担当者との連携の重要性を認識し、日常業務を通じた報告や情報交換、助言等を得るなど協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時の研修で理解する機会を作っています。玄関は防犯の目的で施錠していますが、開錠ボタンですぐに外へ出られるようになっています。ボタンの操作ができなくても玄関へ向かう姿が見られたときは、一緒に外へ出るなどして行動を止めない様支援しています。	指定基準にある身体拘束の具体的な禁止の対象となる行為を身体拘束廃止、高齢者虐待防止などの内部研修会の開催や外部研修会参加等で日常業務を通じて正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修で学ぶ機会をつくっています。入居者の皮膚変色などを発見した場合、原因を考えて支援や介助方法の見直しを図り、職員の「無意識」を「意識」して支援できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修やミーティングで学ぶ機会を作っています。ご家族から相談があった場合は必要な情報の提供などを行い活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、文書と口頭で説明を行っています。都度質問や疑問点がないか確認をして同意をえています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中からご本人の思いを汲み取るよう努めています。ご家族の来訪時には普段の生活の報告をしながら意見、要望を聞いています。	来訪者や本人・家族等が意見や苦情等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう職員間で話し合う機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングや計画作成担当者会議などで職員が意見や提案できる場を設けています。必要な案件は本社会議で報告をしています。	フロア会議やミーティングを通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議で各フロアの人事や各職員の勤務状況について報告を受けています。問題点や課題については都度対応し、働きやすい職場の環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員には、研修手当や受講料の助成をしています。外部研修に参加した職員はフロアミーティングで他職員へ報告してもらい知識を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地区会議やケア連絡会などの勉強会や交流会には職員も参加して交流を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中や表情から、不安なことや困りごとがないか思いを汲み取り傾聴するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や契約時に困り事や不安がないか聞いています。入居されてからも、ご家族の来訪時には、日頃の報告をしながら不安な事や要望が話しやすい環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の問い合わせや見学時にお伺いした困り事や不安な事に対して、現在のサービス支援だけではなくその方に必要と思われるサービスの情報もお伝えするよびにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、出来ない事の見極めをして調理や清掃などの家事を一緒に行い、役割を持った生活が出来るように支援しています。人生の先輩として意見を伺ったりして関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をして頂き調理や食事を一緒に行い楽しめる機会作りをしています。又、支援方法や内容について悩んだときには、ご家族から情報を頂き対応しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用したりお墓参り等ご家族と協力しながら支援しています。知人やお友達の来訪時には、会話が繋がるように間に入ったり、当人同士で会話を楽しんでいただいたりした場合や状況によって支援しています。	散歩や買い物、地域の盆踊り等の行事参加、地元中学校生徒との交流で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話できるよう働きかけを行なっています。家事支援に於いても入居者のできる事出来ない事を把握し互いに協力し行えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望があれば、広報の送付をさせて頂いています。相談があれば随時対応しており、退去後もご家族がホームに立ち寄ってくださっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情からご本人の思いを汲み取り、要望や意向を汲み取るよう支援しています。ご家族からの情報も大切に、本人本位の支援が出来るよう努めています。	日常の会話や家族等からの情報で一人ひとりの暮らし方の希望や意向を把握して、フロア会議やミーティングで話し合い、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人にお伺いしており、普段の会話や行動からも情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日ごとの記録に、できる事・できない事、出来る時・出来ない時の把握に努めて記入をしています。記録に記入する事で、職員間で情報の共有をして支援に繋がっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の表情や口調から楽しい事・嬉しい事の把握に努めています。ご家族からの意見、要望の他、主治医や病院の相談員等の意見も参考にし介護計画書へ反映をしています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、医師及び常勤看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の他ケアプランのサービス内容について、何をしてどうであったかを記入するように努めています。モニタリングでは、記録を参考に、プランの見直しや評価に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調の変化や環境の変化に合わせて、都度職員間で情報の共有をしながら迅速に対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加や、近隣のお店へ買い物や外食へ出かけるなど、地域とのつながりが持てるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望の医療機関と良好な関係を築けるよう情報提供に努め、健康管理を行なっています。	受診は、本人・家族等が納得したかかりつけ医となっている。また、往診や通院等への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化を記録に記入しています。看護職員の出勤時には情報の共有を図り、入居者が適切な医療や看護を受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況が解るようにフェイスシートを作成して活用しています。入院中の状態も家族・病院から情報を得て早期退院へ向け対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時や見学時にはホームで出来る対応や医療機関との連携についてご説明させて頂いています。重度化が予測される場合は早い段階でご家族と終末期ケアについて相談させて頂き、意向や要望を確認し、最善を考慮して対応しています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有し、ターミナルケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアミーティングで心肺蘇生のシュミレーションを行っています。急変や事故発生時についてもフローチャートやマニュアルですぐ確認できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練には町内会の方にも参加していただいています。地震や風水害時の対応マニュアルの他ミサイルなどの対応についても啓発している。	地域の人々の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。また、自然災害(水害・地震等)の対応についても検討している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに配慮し一人ひとりの方の誇りや気持ちを気づけたりしない様に努めています。更衣や排泄の支援の場面では羞恥心に配慮するよう心掛けています。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように内部研修会開催やミーティング等で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問や提案のほか会話の中で表情や言動から思いを汲み取るように努めています。ご本人が選ぶことができるような選択肢の提案についても都度工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日頃の会話の中から、外出や買い物選択等希望があれば日程や時間の調整に努めています。意思表示が苦手な方には要望や思いを表してもらえよう声掛けや選択肢の提示を行い意向を確認しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際はご本人がわかる選択肢の提案をして好きな服が着れるように支援しています。季節に合わせたおしゃれができるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けに参加ができるように、出来る事の見極めや場面作りを行っています。会話をしながら楽しめるように配慮しています。	一人ひとりの力を活かしながら、食事の準備や食器洗い、後片付けなど職員と一緒にしている。また、フードコートやレストランでの外食、焼肉パーティーや花火大会の開催など楽しみごとや気分転換への支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に食事・水分量を記入して変化に気付けるようにしています。嚥下機能に合わせて刻みやミキサー食で提供し皆と同じメニューを楽しめるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗口できるよう支援しています。ご本人で出来るところは行っていただき仕上げ磨きは支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を個別記録に記入し、それぞれの排泄パターンの把握に努めています。表情や言動からも排泄のサインを見逃さない様にする事でトイレでの排泄ができるよう支援しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	コンチネンスケアを参考にしながら、個々に応じた予防に取り組んでいます。毎朝冷たい牛乳を提供したり、乳製品・ヤクルトなどの定期的な摂取の他、食物繊維が取れるように配慮しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人の予定を尋ねてから入浴の声掛けをするようにしています。希望の時間帯やタイミングに入浴が楽しめるように努めています。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟な入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や体力に合わせて必要な方には日中でも居室での休息を促しています。室温や照明など安心して眠れるよう環境づくりを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時は必ず薬説明書を確認しています。服薬後の経過で変化に気付けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得意だったことや好きなことができるように支援したり、現在の出来る事を自身をもって行えるよう家事活動の中に取り入れて支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	かかりつけの美容院への外出や希望の買い物に出かけられるように支援している。外出行事は入居者の希望や要望を取り入れて企画を立てるように努めています。	一人ひとりのその日の希望に沿って、平岡樹芸センターや開拓の村、滝野すずらん公園や羊が丘展望台など普段は行けないような場所でも、戸外に出かけられるような支援している。また、戸外に出かける取り組みを職員間で話し合い、多く実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理・使用できる方には行っていただいています。お小遣い帳の記入をしていただけるように支援することで不安にならない様配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができるように、一緒に文章を考えたり、ポストに出しに行けるよう支援しています。電話を利用の希望があった時は使用方法をお伝えしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しめ飾りやクリスマスツリー、ひな人形など季節ごとの飾りつけも入居者と一緒に行っています。室温や湿度管理も都度行い快適に過ごせるようにしている。	共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などで生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを配置しています。一人になりたい時や気の合う方同士でゆっくりお話しできるような環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れたものを持ってきていただいています。家族の写真や、仏壇など本人の馴染みの環境づくりをすることで居心地良く生活できるよう支援しています。	居室には、家具や日用品が持ち込まれたり、家族等の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や家具の配置の他、食器棚には収納場所がわかるように表示することで自立した生活が送れるよう工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503627		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム コケモモの家 2階		
所在地	札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町村受理日	平成30年1月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503627-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が得意な事を活かし、ホーム内で役割を持つことで生活の場であることを感じていただけるよう支援しています。入居者同士、馴染みの関係づくりが出来るよう職員が意図的に関わっています。町内会行事や買い物、外食等日常的に外出する事で地域との交流を図り、入居者の皆様が安心して生活できる環境づくりに努めています。入居者の皆様にとっては、職員も環境の一部であると捉え、お一人おひとりの意向の把握や状況・状態に合わせた対応で入居者の皆様が主体となり生活できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時の職員が「地域密着…」を念頭におき考えた理念です。毎日、朝礼で唱和することで再認識をし日々の支援につなげています。各フロアにも掲示をして日頃から意識して支援しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーや飲食店を利用したり、町内会行事への参加をしています。ホーム前の行事や清掃時など通行人の方へご挨拶や声掛けをして交流を図るよう支援しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学に来られたご家族へ、生活の中での困りごとはないかお聞きしています。認知症の支援についてアドバイスや相談について対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	会議では活動状況や運営についても報告をしています。議事録は各フロアに掲示し誰もが閲覧できるようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者連絡会や豊平区内の会議への参加の他、報告書類についても取り組み内容について報告しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時の研修で理解する機会を作っています。玄関は防犯の目的で施錠していますが、開錠ボタンですぐに外へ出られるようになっています。ボタンの操作ができなくても玄関へ向かう姿が見られたときは、一緒に外へ出るなどして行動を止めない様支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修で学ぶ機会をつくっています。入居者の皮膚変色などを発見した場合、原因を考えて支援や介助方法の見直しを図り、職員間でもお互いの支援内容について意見しあえる関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修やミーティングで学ぶ機会を作っています。ご家族から相談があった場合は必要な情報の提供などを行い活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、文書と口頭で説明を行っています。都度質問や疑問点がないか確認をして同意をえています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中からご本人の思いを汲み取るよう努めています。ご家族の来訪時には普段の生活の報告をしながら意見、要望を聞いています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングや計画作成担当者会議などで職員が意見や提案できる場を設けています。必要な案件は本社会議で報告をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議で各フロアの人事や各職員の勤務状況について報告を受けています。問題点や課題については都度対応し、働きやすい職場の環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員には、研修手当や受講料の助成をしています。外部研修に参加した職員はフロアミーティングで他職員へ報告をしてもらい知識を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地区会議やケア連絡会などの勉強会や交流会には職員も参加して交流を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中や表情から、不安なことや困りごとがないか思いを汲み取り傾聴するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や契約時に困り事や不安がないか聞いています。入居されてからも、ご家族の来訪時には、日頃の報告をしながら不安な事や要望が話しやすい環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の問い合わせや見学時にお伺いした困り事や不安な事に対して、現在のサービス支援だけではなくその方に必要と思われるサービスの情報もお伝えするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、出来ない事の見極めをして調理や清掃などの家事を一緒に行い、役割を持った生活が出来るように支援しています。人生の先輩として意見を伺ったりして関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはホームでの生活の様子をお伝えし、楽しみや嬉しかったことなど共有できるように心がけています。症状や生活に変化が見られたときはご家族と相談しながら対応を考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ外出が難しい方には、ご家族の協力の元ホームに来ていただきカットしていただいています。外出が難しくても関係が途切れない様に支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話できるよう働きかけを行なっています。会話に誤解が生じトラブルにならないよう配慮して声掛け見守りを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望があれば、広報の送付をさせて頂いています。相談があれば随時対応しており、退去後もご家族がホームに立ち寄ってくださっています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情からご本人の思いを汲み取り、要望や意向を汲み取るよう支援しています。ご家族からの情報も大切に、本人本位の支援が出来るよう努めています。		
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人にお伺いしており、普段の会話や行動からも情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日ごとの記録に、できる事・できない事、出来る時・出来ない時の把握に努めて記入をしています。記録に記入する事で、職員間で情報の共有をして支援に繋がっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の表情や口調から楽しい事・嬉しい事の把握に努めています。ご家族からの意見、要望の他、主治医や病院の相談員等の意見も参考にし介護計画書へ反映をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の他ケアプランのサービス内容について、何をしようであったかを記入するように努めています。モニタリングでは、記録を参考に、プランの見直しや評価に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調の変化や環境の変化に合わせて、都度職員間で情報の共有をしながら迅速に対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事への参加や、近隣のお店へ買い物や外食へ出かけるなど、地域とのつながりが持てるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望の医療機関と良好な関係を築けるよう情報提供に努め、健康管理を行なっています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化を記録に記入しています。看護職員の出勤時には情報の共有を図り、入居者が適切な医療や看護を受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況が解るようにフェイスシートを作成して活用しています。入院中の状態も家族・病院から情報を得て早期退院へ向け対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時や見学時にはホームで出来る対応や医療機関との連携についてご説明させて頂いています。重度化が予測される場合は早い段階でご家族と終末期ケアについて相談させて頂き、意向や要望を確認し、最善を考慮して対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアミーティングで心肺蘇生のシュミレーションを行っています。急変や事故発生時についてもフローチャートやマニュアルですぐ確認できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練には町内会の方にも参加していただいています。地震や風水害時の対応マニュアルの他ミサイルなどの対応についても啓発している。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに配慮し一人ひとりの方の誇りや気持ちを傷付けたりしない様に努めています。更衣や排泄の支援の場面では羞恥心に配慮するよう心掛け、同意を頂いてから支援させていただくように留意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問や提案のほか会話の中で表情や言動から思いを汲み取るように努めています。ご本人が選ぶことができるような選択肢の提案についても都度工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	普段の言動や表情から一日をどのように過ごしたいのか希望や思いを汲み取るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際はご本人がわかる選択肢の提案をして好きな服が着れるように支援しています。起床時の整容も自身の手順で整えられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理参加がし易いように、入居者の好みや、季節に合わせたメニュー作りを行っている。出来る事の見極めを行い準備から片付けまで参加してもらえるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に食事・水分量を記入して変化に気付けるようにしています。嚥下機能に合わせて刻みやミキサー食で提供し皆と同じメニューを楽しめるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗口できるよう支援しています。ご本人で出来るところは行っていただき仕上げ磨きは支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を個別記録に記入し、それぞれの排泄パターンの把握に努めています。表情や言動からも排泄のサインを見逃さない様にする事でトイレでの排泄ができるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳の提供や、好みの飲み物を提供することで水分量の摂取を図っています。階段昇降など運動する機会作りを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	ご本人の予定を尋ねてから入浴の声掛けをするようにしています。希望の時間帯やタイミングに入浴が楽しめるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や体力に合わせて必要な方には日中でも居室での休息を促しています。室温や照明、リネンの状態も確認して気持ちがい眠りになるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時は必ず薬説明書を確認しています。服薬後の経過で変化に気付けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や余暇時間ではそれぞれ得意なことや好きなことができるよう支援しています。自信を持って頂けるよう支援することで役割のある生活ができるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など希望に沿って支援しています。外出行事の他、外食や外出・外泊などもご家族と協力し行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理・使用できる方には行っていただいています。お小遣い帳の記入をしていただけるように支援することで不安にならない様配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人からの届きものがあつた場合は電話でお礼のご挨拶ができるよう支援したり、手紙が届いた時には郵便受けまで取りに行けるよう支援し返信できるよう働きかけています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや、行事や外出時の写真など飾りつけしています。室温や湿度の管理にも注意を払っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥のテラスにソファとテーブルを配置し気の合った方同士、お話をしたりお茶を楽しめるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は使い慣れたものを持ってきていただいています。家族の写真や、仏壇など本人の馴染みの環境づくりをすることで居心地良く生活できるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や家具の配置の他、食器棚には収納場所がわかるように表示することで自立した生活が送れるよう工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム コケモモの家

作成日: 平成 29年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	職員の定着でさらなるサービスの質の向上を図っていく。	・やりがいを持って働けるよう就業環境を整備していく。 ・内部研修の充実及び外部研修会への積極的参加。	・段階に応じた研修(内部研修・外部研修参加) ・テーマを決めて研修内容の充実を図っていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。